

入試問題の出題意図と傾向・面接評価内容

科目別出題意図と傾向

科目	出題方針・形式
英語	〈学校推薦型選抜入試〉 読解 (50点)、文法・語法 (25点)、整序英作文 (25点) の3題構成で、解答方式はマークシート方式 (一部記述) です。出題内容については、次の一般選抜入試に準じます。
	〈一般選抜入試〉 読解 (50点)、会話 (15点)、文法・語法 (15点)、整序英作文 (20点) の4題構成で、解答方式はマークシート方式 (一部記述) です。読解問題では、選択式設問 (語彙、下線部内容、内容一致・不一致、表題選択など) と記述式設問 (自由回答式の設問など) を通して、英文読解力、出題分野への理解度や関心度、知識・思考力・表現力を測定します。会話問題では、日常的な会話を扱った問題、文法・語法問題と整序英作文問題では、標準的な文法、語法、構文の知識を問う問題を出題します。
国語	〈学校推薦型選抜入試〉 課題文付きの大問2題 (各50点) で、解答方式はマークシート方式 (一部記述) です。出題内容については、次の一般選抜入試に準じます。
	〈一般選抜入試〉 課題文付きの大問2題 (各50点) で、解答方式はマークシート方式 (一部記述) です。設問数は、各大問8問程度で、選択式設問 (漢字と熟語の知識、接続詞や語句の意味に関する知識、空所補充、内容一致など) と記述式設問 (課題文の部分解釈や理由説明など) を通して、知識・思考力・表現力を測定します。 課題文は、「現代の国語」や「言語文化」などの教科書に載るような標準的な評論・随筆文 (新聞の論説なども含む) で、近代以降の文章を出題します。
	〈小論文〉 記述字数は800字程度で、課題文や資料を読み、その内容に関連し、自ら立案し、考えを論理的に表現できるかどうかを評価します。課題文以外に、図表などの資料を出す場合もあります。採点にあたっては、課題文や資料の読解力 (情報分析力)、論理的思考力、表現力などを複数の採点者により総合的に評価します。
数学①	〈学校推薦型選抜入試〉 小問集合1題と大問2題の3題の出題で、解答方式は記述式です。出題内容については、次の一般選抜入試に準じます。
	〈一般選抜入試〉 小問集合1題と大問2題の3題の出題で、解答方式は記述式です。出題範囲は「数学Ⅰ」・「数学 A (数学と人間の活動を除く)」で、知識としての定義や公式、解法、計算などその処理能力および論理的な表現力を測定します。記述式答案については、解答の導出過程が論理的に説明されていることが必要です。
数学②	小問集合1題と大問1題の2題の出題で、解答方式は記述式です。出題範囲は「数学Ⅱ」で、知識としての定義や公式、解法、計算などその処理能力および論理的な思考力・表現力などを測定します。出題を通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の基本的な考え方を理解できているかを測定します。記述式答案については、解答の導出過程が論理的に説明されていることが必要になります。
物理	大問1 (40点)、大問2 (30点)、大問3 (30点) の3題構成で、解答方式は記述式です。出題範囲は「物理基礎」・「物理」ですが、「物理基礎」を中心に出题しています。 大問1は、力学や電磁気学といった高校の物理学で学ぶ現象に関する選択問題 (20問) で、基本的な用語の定義や物理量の単位などについての理解を測る内容を出題しています。 大問2、3は、主に力学に関する問題と電磁気学に関する問題の記述式問題で、それぞれ5〜6問の小問に分かれています。解答は、単に数値を求めることのみを問われるのではなく、図やグラフから必要な情報を読み取り求められた内容を解答するものや、図やグラフとして解答を記述する場合もあります。 力学では、物体の運動、力の作用、力学的エネルギーと仕事、波動現象、熱 (力学) などに関する問題、電磁気学では、電気と磁気の相互作用、電圧と電流、直流と交流、電気回路、電力とエネルギーなどに関する問題を、高校で学習する物理系科目の基本的な内容を中心にして出題し、医療分野を学ぶための基盤素養のひとつとしての自然科学的思考法や表現法の基礎が身についているかを測ります。

科目	出題方針・形式
化学	大問3題で構成し、大問1 (約40点) は無機物質を主とする選択肢のある空所補充問題、大問2 (約30点) は物質の状態を主とする計算問題、大問3 (約30点) は有機化合物を主とする総合問題となっています。解答方式は記述式で、計算問題については簡単な説明や計算式を要求しています。 空所補充問題では、原子の構造・元素の性質、反応性などを周期表と関連づけて理解することが求められます。有機化合物の問題では、基本的な分子式や構造式を押さえ、合成・分解反応の流れを系統的に理解していることが求められます。計算問題は濃度問題、反応式を利用した物質質量計算などを出題し、思考力や表現力を測定します。
生物	構成は、大問題 (約40点)、中問題 (約30点)、小問題 (選択問題10問からなり各3点、全体で30点) の3題構成で、解答方式は記述式です。 大問題は、知識・理解だけでなく、表やグラフを用いた計算問題から応用力と思考力を測定します。中問題は、穴埋め問題や記述問題 (50字程度) が中心で、基礎知識と理解度、表現力を測定します。小問題は4択あるいは5択の形式の選択問題10問からなり、中問題とは別の角度から基礎知識を測定します。ヒトをふくめた動物の生物学の分野を重点的に出題します。

面接評価内容

学部学科	内容	評価基準
看護学部 看護学科	グループディスカッションや面接を通して、他者との協働性、共感能力、主体性、コミュニケーション能力について評価します。	「内容」に記載した項目に加え、看護職への熱意・適性について総合的に評価します。また本学で学ぶ意欲や熱意についても評価します。
医療保健学部 理学療法学科	グループディスカッションや面接を通して、医療に携わる熱意、自己研鑽の姿勢、社会への関心、コミュニケーション能力、論理的思考能力について評価します。	理学療法士を志望する動機が明確か、問題解決能力を有しているか、日本の社会・医療・福祉の現状と課題を認識しているか、質問に対して適切に回答できるコミュニケーション能力と論理的思考能力を有しているかを評価します。
医療保健学部 作業療法学科	日本の医療・健康・福祉に対する関心、他者との協働性、共感能力、主体性、コミュニケーション能力あるいはこれらを説明する論理性の程度について、グループディスカッションや面接を通して評価します。	「内容」に記載の評価項目に沿ったループリック形式の順序尺度を用いて採点・評価します。
医療保健学部 臨床工学科	医学と工学に対する関心、医療職を通して社会貢献する意識、他者との協働性、知的好奇心を持ち、それを実現する行動力と責任感について、グループディスカッションや面接を通して評価します。	グループディスカッションや面接を通して、「内容」に記載した評価項目を総合的に評価します。
医療保健学部 健康科学科	グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価します。	「内容」に記載した項目に加え、人々の健康維持・増進の担い手として社会で活躍する実践者や、研究者として社会貢献をめざす熱意・適性について評価します。また、本学で学ぶ意欲や熱意についても評価します。